

授 業 科 目 名	社会Ⅰ	教 員 名	藤本 将人	免許・資格 との 関 係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	
					保育士	
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	KY0109	配 当 年 次	1 年後期		小幼コース	選択必修
単 位 数	2 単位				幼保コース	選択
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等	教科に関する専門的事項 ・ 社会					
一 般 目 標	小学校学習指導要領社会編で取り上げられている各学年の内容（宮崎県内の各地域の学習、我が国の国土と産業の学習等）に関わる基礎的事項の理解とその調査・探究方法を学ぶとともに、学習内容を小学校社会科の目的・目標と関連付けて考えることができる。					
到 達 目 標	(1)－1) 小学校社会科における各学年の内容の構造（宮崎県内の各地域の学習、我が国の国土と産業の学習等）を理解することができる。 2) 地域の調査方法を理解することができる。 (2)－1) 調査した結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化できる。 2) 考察の結果をプレゼンすることができる。					
授 業 の 概 要	小学校社会科の内容を踏まえて、地域の産業と消費生活、健康な生活や良好な生活環境、地域の地理的環境等、地域社会学習の基本を学習する。「社会Ⅰ」では、主にわが国の国土環境と産業、公害と国民の健康・生活環境、自然災害からの国土保全、国民の食生活と農水産業及び貿易、世界と日本の地域構成について学習する。 アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている。」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：小学校社会科の内容の確認（目標(1)－1)） 社会科の内容を確認する。社会科の内容は、児童の発達段階や地域の実態の外に、社会諸科学の内容や方法を背景として構成されていることを理解する。 第2回：地域社会の学習 身近な地域の人々の暮らし（目標(1)－1), 2)） 身近な市町村、県の人々の暮らし、地域の産業と消費生活、健康な生活、安全を守る活動、国土地理院の地形図、航空写真、絵地図などの地図の読み取りと活用を学ぶ。地形、土地利用の自然地理、人文地理学の研究法の基本を学び、地域調査の理論と実践上のルール、地域の規模に応じた調査の手法を学ぶ。 第3回：地域学習の方法 地域特性・防災教育（目標(1)－1), 2)） 都道府県の地形と工業・農業など産業と地形的な条件を考える地誌学的な視点、地域・社会の空間的な広がり、気候などの自然環境を研究する自然地理学的な視点、地域・社会の農業・工業・都市・文化あるいはコミュニティを観察する人文地理学的な視点や方法を学ぶ。またフィールドワークの技法を学び、地域の特性や防災について考える。 第4回：我が国の国土環境・産業と国民生活、防災（目標(1)－1), 2)） 地図帳やインターネットを用いて、我が国の位置と領土に関する基礎的知識を獲得する。国土の地形・気候といった自然地理的環境と人々の生活、食料生産、自給率、農業生産、農業経営、漁業生産・漁業経営、工業生産と国民生活、交通航空網、高速道路網、海上輸送網、鉄道輸送網、情報産業・電子商取引、外国人観光客の推移・情報社会と国民生活を考える。自然や環境を保護する取り組み、公害、防災・国土保全についても理解する。 第5回：世界と日本の地域構成（目標(1)－1), 2)） 国土と環境、地球温暖化と異常気象、原子力発電の行方、再生可能エネルギーへの転換を学ぶ。世界地図や地球儀その他の資料を活用して、世界の六大陸・三大洋、日本の地域構成、日本の国土					

	の様子、領土と海洋を理解する。 第6回：世界の国々と日本（目標(1)-1), 2)) 各種の世界地図の特徴を学び、地球儀を活用して世界と比べて見た日本、様々な面からとらえた日本、様々な特色を関連付けて見た日本について考える。 第7回：地域調査（目標(2)-1), 2)) 身近な地域を取り上げ、地域の産業と消費生活等を調査する。 第8回：地域調査（目標(2)-1), 2)) 身近な地域を取り上げ、健康な生活や良好な生活環境等を調査する。 第9回：地域調査（目標(2)-1), 2)) 身近な地域を取り上げ、地域の地理的環境等を調査する。 第10回：地域調査（目標(2)-1), 2)) 第7～9回の調査を振り返り、地域社会学習の基本を理解する。 第11回：調査結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化する（目標(2)-1), 2)) 小学校社会科の目標を確認する。 第12回：調査結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化する（目標(2)-1), 2)) 教材化の方法を学ぶ。 第13回：調査結果を小学校社会科の目的・目標と関連付けて教材化する（目標(2)-1), 2)) 実際に教材化を行う。 第14回：プレゼンテーション（目標(2)-1), 2)) 考察の結果と教材化した資料をプレゼンする。 第15回：プレゼンテーション（目標(2)-1), 2)) 考察の結果と教材化した資料をプレゼンする。 定期試験
学 生 に 対 す る 評 価	定期試験60%、課題レポート40%で評価する。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。） ・毎回の内容について、事前に講義資料や印刷物をわたすので、しっかりと目を通し、不明な点等をあらかじめ調べておくこと。 ・毎回の授業後に、講義内容について自分の言葉でまとめ、他者に説明できるようにする。
テ キ ス ト	『小学校学習指導要領（平成29年告示）』（文部科学省） 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』（文部科学省） 作成したプリント資料を適宜配布する。
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	各社小学校社会科教科書 週刊朝日百科『新訂増補日本の歴史』（朝日新聞社） 正井泰夫 監修『今が分かる時代が分かる世界地図』 など適宜紹介
担 当 者 か ら の メ ッ セ ー ジ	特になし
オフィスアワー	授業の前後の時間（メール等でアポイントを取ること。）